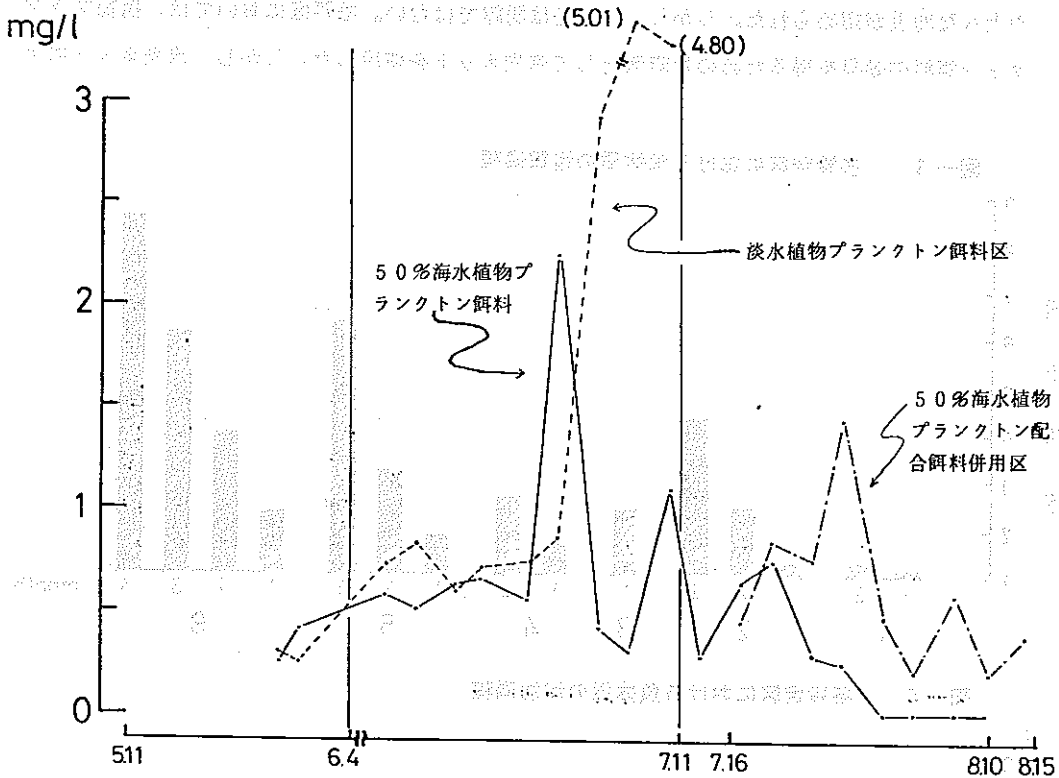


図一 4 飼育水中のクロロフィルーの濃度 (mg/l) の変化



もわずかに出現した。50%海水植物プランクトン餌料及び給餌併用区では、淡水産植物プランクトンが繁殖した中に海水を注入したために、耐塩性を持った淡水産植物プランクトン（淡水植物プランクトン餌料区と同様）と *chlorella spp.* が優占した。

### 3-2-II 植物プランクトン餌料区における成長（図-5、6）（表-2）

淡水では60日間の養成で増重倍率が1.49と設定区中最も低い値を示し、日間増重量率も0.69%と低いものであった。

50%海水では開始から30日間の成長は淡水区同様低かった（日間増重量率0.94）が、次の30日間では給餌区以上の日間増重量率（2.18）を示した。その次の30日間では、やや低くなり全期間通じては増重倍率4.30、日間増重量率1.48%であった。

50%給餌併用区では高水温期の実験でもあり、設定区中最も高い成長を示した。30日間の増重倍率は2.34、日間増重量率は2.68%であった。

以上のように植物プランクトンを餌料とした実験で50%海水における飼育が淡水に比較して大きな成長が認められた。また、50%海水で給餌を併用すると更に成長が大きかった。